

## 避難訓練を行いました

1月17日（月）に、地震・津波による避難訓練を行いました。子どもたちは、緊急地震速報を静かに聞いた後、速やかに自分の身を守りました。まず、避難口の確保をし、窓や壁から離れて、頭を守りました。「お」「は」「し」「も」「ち」を守りながら、運動場へ避難しました。帽子や座布団で頭を守りながら避難ができました。



運動場に避難すると、人員点呼を行いました。一人でも数え間違えると大変です。教師も、確実に点呼を行いました。

児童の肩に触れながら確実に点呼をしています



全員が運動場に避難完了後、児童会が主体となって、『はるかのひまわり絆プロジェクト』について説明をしました。今年度に収穫した『はるかのひまわり』の種を披露しながら、鳥取県の赤碕小学校や台湾のぎゃんぴん小学校等に平荘小学校から『命の尊さ』を発信していることも改めて知らせました。

そして、阪神淡路大震災で亡くなった方々のご冥福をお祈りして、全員で『黙祷』を行いました。

最後に、児童会が、『はるかのひまわり絆プロジェクト』の感想を全校生に尋ねました。「命のバトンの大切さや一人一人の命の大切さがわかりました。」「はるかのひまわりを身近に感じました。阪神淡路大震災のことを忘れてはいけないなと思いました。」と、感想を聞くことができました。







《感想を発表》



《黙祷》



今日は、地震による避難訓練です。

みなさん、安全に避難ができましたか。

地震が起こると、まず逃げ道を確保します。そして、頭を守ります。机の下にもぐったり、壁から離れて体を低くしたりします。

避難が始まると、「お・か・し・も・ち」の徹底をします。

1学期の避難訓練でも話しましたが、避難の仕方は普段の生活がきちんとできているかどうかを確かめるよい機会でもあります。静かに安全に移動ができましたか。

さて、今日は、なぜ地震による避難訓練をしたのでしょうか？それは、今から27年前の1月17日に、阪神淡路大震災が起こった日だからです。「天災は忘れたころにやってくる」ということわざがあります。「自然災害はその被害を忘れた時に再び起こるものだ」という戒めです。阪神淡路大震災・兵庫県南部地震のことを忘れず、地震が起こった時はどう行動するのかを、常に意識する（災害に備える）ことが自分の身を守ることになります。

また、日頃から、進んであいさつをしましょう。挨拶は、防災にもつながっています。あいさつの習慣は、震災の時に、自分を助けてくれる大切なメッセージにもなります。

阪神淡路大震災で被災した人の話です。「地震が起こり、みんな必死になって避難をしました。自分の命は自分で守るしかありません。建物の下敷きになると自力では脱出することはできません。そんな時に、いつもあいさつを交わしている人が、心配して助けに来てくれたのです。」

あいさつは、防災においても、とても大切な役割を果たしています。みなさん、自分から進んであいさつをするように意識しましょう。

それから、一昨日（1月15日）、トンガ諸島の海底火山が爆発し、その影響で日本も津波の影響がありました。

地震等、地殻変動があると津波が発生する可能性があります。地震と津波をセットで覚え、自分の身は自分で守れるようにしましょう。

《津波による被害想定ついて》

浸水20~30cm

人は速い流れに巻き込まれてしまう恐れあり。大変危険。

浸水50cm

船舶や木材などの漂流物の直撃によって被害が出る恐れあり。

浸水1m

木造家屋が一部崩壊

浸水2m

木造家屋が全面崩壊

引き続き、津波による避難訓練をしました。全校生が4階に避難しました。



昨日、かんぱんとα米を配付しました。

ご家庭で、お使いください。

